

令和6年度三田市高校生議会 質 問 書

【質 問 者】 14番 兵庫県立有馬高等学校 2年 小畑 葵衣（こばた あおい）

【担 当 課】 産業振興部 里山保全課

【答弁予定者】 産業振興部長

【質 問 事 項】 木漏れ日であふれる里山保全を目指して

【質 問 内 容】

14番 高校生議員の兵庫県立有馬高等学校2年の小畑 葵衣です。

私からは、三田市の里山保全について質問をさせていただきます。

私は小さな頃から自然が好きで、よく公園の芝生の上を駆け回って遊んでいました。特に好きなのは木漏れ日で、疲れた時に木漏れ日の下で一息つくと、心が落ち着きます。そのことから、三田市の自然を長く守ることが出来たらいいなと考えています。

里山の保全がなされず、多くなりすぎた木によって里山に光が入らず辺りが暗くなり、木漏れ日ができる場所は少なくなってしまう。また、光が入らなくなることによって多種多様な植物が育たなくなります。里山が保全されている範囲を拡大していくことが必要だと考えています。しかし、範囲を拡大するには、保全活動をする人を増やすことが必要です。そこで私は、木を切る等里山保全活動を体験する講座や授業を取り入れることを提案したいと思います。講座や授業をすることで、里山保全に関心はあるが行動に移せていない

人のハードルが下がります。また、プロの方に教えてもらうことで、安心した気持ちで里山保全活動を始めることが出来ます。さらに、講座や授業を通して里山保全活動の楽しさを知る方が増えると、さらなる里山保全の範囲拡大が見込めます。里山の保全の拡大が実現することによって、どんな時でも自然と触れ合い、すがすがしい気持ちで暮らすことが出来る街になると思いますし、私たち若者も自然の素晴らしさに触れることで、潜在的に自然を汚したくないと考え、ゴミ拾いをしたり、綺麗な景色を SNS で広めたりすることで、街づくりに参加できると考えました。

最後に、私は木漏れ日で癒されない人はいないと思っています。無条件に誰にでも癒しを与えてくれる木漏れ日こそが、今の三田市にとって守っていくべき大切なものなのではないでしょうか。

三田市の里山保全に関する講座や授業を取り入れるということについて、市の考えをお聞かせください。

【答 弁 内 容】

私からは、議員ご質問の「木漏れ日であふれる里山保全を目指して」についてお答えします。

三田市では、豊かな里山を次世代に引き継ぐため、地域住民やボランティア団体が行う様々な保全活動の取り組みを支援しています。支援する主な保全活動としては、市街地では、狭間が丘地区の「ブイブイの森」、農村地域では、上槻瀬地区の「高平ナナマツの森」などにおいて、日が差し込み、多様な生物

が生息できるために行う、里山の間伐や下草刈り、散策路整備などが挙げられます。

しかしながら、現在、保全活動が行われている里山は限られていることから、活動の範囲を拡げていくためには、議員ご提案のように、里山保全に関する講座や授業を取り入れ、里山への関心を高め、さらには活動への参加者を増やしていく必要があります。

このため、三田市では、専門家である県立人と自然の博物館やボランティア団体と連携して、テクノパーク地区の「皿池湿原」で、里山の魅力を体感できる観察会、保全に関する知識の習得や整備体験ができる担い手養成講座をそれぞれ年2回実施しています。また、「ブイの森」などの里山では、近隣の小学校・高校が、環境・体験学習や伐採実習などの授業を行っており、議員が通われている有馬高等学校においても、ボランティア団体の協力を受けながら、学生が学校敷地内の荒廃した竹林整備を行い、伐採した竹の利活用につなげる取り組みが進められています。

今後、このような里山の観察会や保全活動体験などの講座や授業について、開催場所の拡大や講座内容の充実を図るとともに、より多くの方が参加し、その楽しさ・魅力を感じてもらえるよう、SNSを活用した動画配信などの情報発信にも注力してまいります。

議員におかれましては、引き続き里山に関心を持ち続けていただき、将来、里山に携わるボランティア活動の担い手となってご活躍されることを期待し

て、ご答弁とさせていただきます。